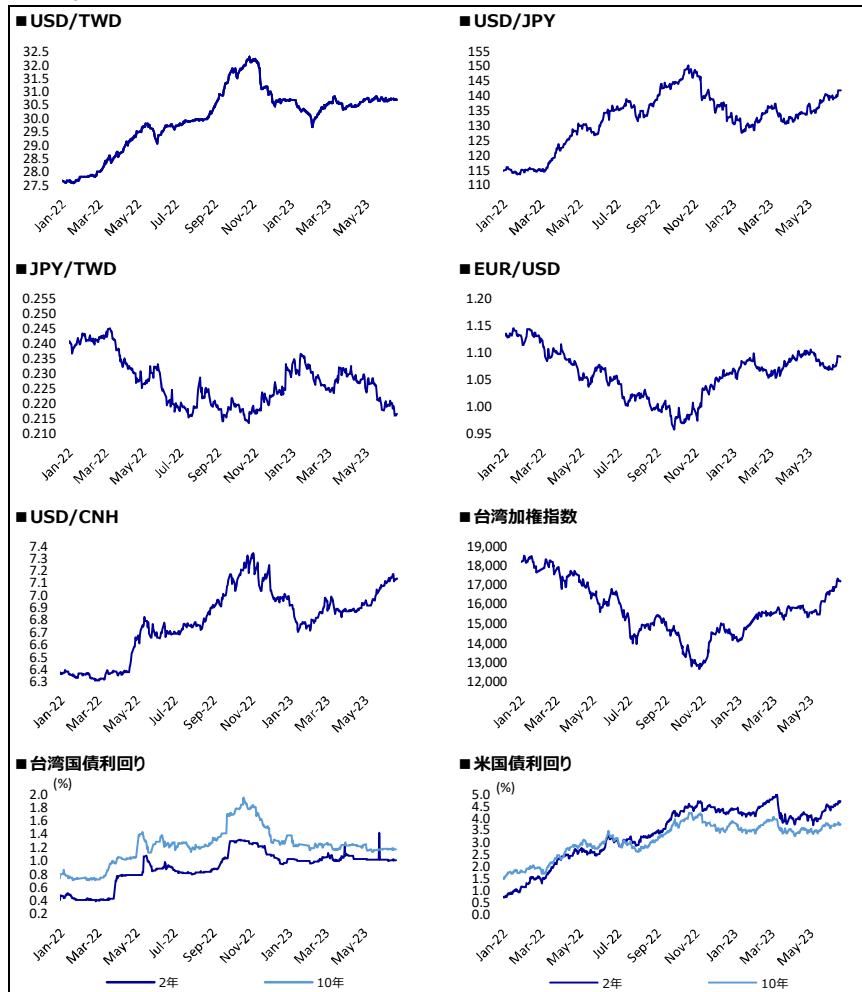


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルはレンジで推移。週初6/12は30.754でオープン後、台湾株が上昇するも、人民元安を受けて一時30.783をつけたが、外国人投資家の資金流入から台湾ドルは買い戻され、30.75付近で推移。6/13は約14か月ぶりに台湾加権指数が17,000ポイント台に乗せると、ドル台湾ドルも一時30.7台を割り込んだが、人民元安や海外への投資送金から30.75付近に戻された。しかし、外国人投資家の台湾ドル買い圧力が強く、30.69台まで下落した。6/14はFOMCを前に動意に乏しく30.7付近のレンジで推移。6/15は前日のFOMCのタカ派スタンスを受けてドル買いが優勢となり、30.76付近まで上昇。しかし、台湾株が年初来高値を更新する中、外国人投資家のドル買いが優勢となり、30.70近くまで戻した。6/16は一時30.665まで下落したが、輸出企業、輸入企業ともに実需のフローが入り、売り買い交錯し、30.70を挟んだレンジで推移。6/17は土曜営業日で薄商いであったが、小幅高でクローズ。最終的には先週比ほぼ変わらない30.738で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は649.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初6/12は139.48でオープン後、重要イベントを控える中、米金利の動向に左右されながらレンジで推移。6/13は米5月CPIが予想を下回り、インフレの鈍化が確認されたことから、139.01まで下落。しかし、利上げ期待が後退しリスクオンの流れとなると米株高・米金利高となり、140円台前半まで上昇。6/14は米5月PPIがCPIに続き、予想を下回ったことから139円台前半まで下落。しかし、注目のFOMCでは利上げを見送ったものの、ドットチャートで年内の利上げ2回が示されたことからタカ派に捉えられ、ドルは買い戻され140円台前半まで上昇。6/15は前日のFOMCを受けて、じり高の展開に。141円台前半まで上昇したが、軟調な米経済指標を受けて米金利が低下するとドル円も140円台前半に戻した。6/16は日銀が金融政策の据え置きを決定すると改めて日米金利差が意識され、再びじり高の展開に。一時、141.91まで上昇し、最終的に先週比1.8%ドル高円安の141.88で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.650-30.850
今週はレンジでの推移を見込む。重要イベントが経過し、また連休を控えていることから、大きく動きにくいと見込む。また、足許は売り買いが交錯しやすく、レンジでの推移が続いており、方向感はいくつかある。

■ USD/JPY 予想レンジ：139.00-143.00
今週は底堅く推移するであろう。先週のFOMCではタカ派スタンスが確認される一方、日銀は緩和政策を維持すると日米の金融スタンスの違いが意識される展開となった。今週も日米金利差が意識され、底堅く推移すると見込むが、パウエルFRB議長の議会証言が予定されているため、発言内容には注目したい。

今週の予定

6/19 (MON)	米国休場
6/20 (TUE)	台湾5月輸出受注、米5月住宅着工・許可件数
6/21 (WED)	
6/22 (THU)	台湾休場、米5月中古住宅販売件数、BOE
6/23 (FRI)	台湾休場、日5月CPI、米6月製造業・サービス業PMI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。